

# 物価高と家計の謎

## ―カザフスタン・アルマトウからのレポート

岡 奈津子



▲山をイメージしたオフィスビル

私が現在住んでいるアルマトウ<sup>①</sup>は、人口二三九万人（二〇一〇年初）を擁するカザフスタン最大の都市だ。中心部はこぎれいなレストランやカフェが建ち並び、二〇〇八年の金融危機で建築

バブルははじけたものの、高層マンションや派手なオフィスビルもそこかしこにそびえ立つ。以前は博物館入りしそうなポンコツ車もよく見かけたが、いまでは（日本車が多いせいもある）走っている

車は日本とほとんど変わらぬ。高級SUVが車全体に占める割合は東京よりずっと高いくらいだ。

アルマトウではさまざまなモノが手に入り、それなりにサービスも発達している分、お値段もかなり割高である。スーパーで少し買物しただけでも二〜三〇〇円はすぐに飛んでいくし、週末、ちよつとしたレジャーに家族で出かけるで一万円くらい使ってしまうこともざらだ。一方で人々の収入はというと、格差が非常に大きいので平均を語ってもあまり意味がないが、私が見聞きした限り月収三万〜六万円くらいの人が多いようである。この収入でどうやってやりくりしているのか。これは私を含む外国人にとって大きな謎である。

そこで私は、自分が実際に買ったモノや利用したサービスの値段を記録してみた（二〇一一年八月九日現在のレートは一テンゲ〇・五二円）。網羅的とは言えないが、おおよその物価がわかっているだけだと思う。なお二〇一一年現在カザフスタンの付加価値税は一二パーセントで、以下に示すのは税込価格である。また家計の支出に占める割合が高い教育費と、職業別の収入に関する情報も若干集めた（これらについてはアルマトウ以外の地方都市の情報も混ざっている）。なお話し手が金額をドルで述べた場合は、円に換算せずそのまま記すこととする。

表1 主要食料品・日用品の価格

|                        | (円)   |
|------------------------|-------|
| 米 (1キロ)                | 101   |
| 小麦粉 (1キロ)              | 68    |
| 牛肉 (1キロ)               | 946   |
| 牛挽肉 (1キロ)              | 829   |
| 羊肉 (1キロ)               | 1,123 |
| 鶏肉 (1キロ)               | 281   |
| ハム (1キロ)               | 1,348 |
| 牛乳 (1リットル)             | 91    |
| バター (200グラム)           | 153   |
| 鶏卵 (10個)               | 120   |
| 食用油 (1リットル)            | 155   |
| 砂糖 (1キロ)               | 117   |
| マヨネーズ (350グラム)         | 164   |
| じゃがいも (1キロ)            | 59    |
| たまねぎ (1キロ)             | 53    |
| にんじん (1キロ)             | 58    |
| キャベツ (1キロ)             | 18    |
| なす (1キロ)               | 44    |
| トマト (1キロ)              | 70    |
| きゅうり (1キロ)             | 49    |
| オレンジ (1キロ)             | 169   |
| リンゴ (1キロ)              | 195   |
| もも (1キロ)               | 208   |
| バナナ (1キロ)              | 117   |
| リンゴ100%ジュース (1リットル)    | 95    |
| 紅茶 (ティーバッグ、25袋)        | 88    |
| 缶ビール (0.5リットル)         | 70    |
| ミネラルウォーター (5リットル)      | 109   |
| そば (300グラム)            | 299   |
| うどん (300グラム)           | 242   |
| シャンプー (400ミリリットル)      | 354   |
| リンス (200ミリリットル)        | 221   |
| 台所用洗剤 (500ミリリットル)      | 127   |
| 洗濯用洗剤 (3キロ)            | 798   |
| 紙おむつ (パンツ式、XLサイズ、45枚入) | 1,141 |

(注) 2011年8月現在の価格。1テンゲ=0.52円で換算。

### ●モノ・サービスの価格

表1に主な食料品・日用品の価格を示した。購入したのは「うちより安い店はどこにある？」という看板を掲げている

表2 各種サービスの価格

|                         | (円)     |
|-------------------------|---------|
| 電話基本料金 (月額)             | 434     |
| インターネット使用料 (月額)         | 2,215   |
| コピー (A4/1枚)             | 5       |
| 定額タクシー (市内近距離)          | 286     |
| タクシー (空港→市内、所要時間30~40分) | 780     |
| バス                      | 26      |
| 喫茶 (コーヒー)               | 100~300 |
| ランチセット                  | 300~700 |
| 博物館入場料                  | 26~52   |
| 遊園地入場料                  | 1,040   |
| 観光地ケーブルカー               | 1,040   |
| 美容院カット (女性)             | 2,080   |
| 美容院カラー (女性)             | 4,680   |
| 小児科診察料 (再診は半額)          | 1,560   |

(注) 2011年6~8月現在の価格。1テンゲ=0.52円で換算。



▲バザールの風景

る近所のスーパーが中心だが、それ以外に大手スーパー、八百屋などでの買い物も若干含んでいる。そば・うどんはこちらの主要食品ではもちろんないが、参考のため載せておいた。なお表に挙げた日用品はすべて輸入品で、これらに限らず日用品のほとんどはカザフスタン国内では生産されていない。

野菜・果物の価格は季節によって変動が激しい。バナナやオレングジなどの輸入品は別として、カザフスタン国内でも生産されている野菜・果物は八月末から一〇月にかけてが最も安いそうだ。私が記録できただけでも、六月の野菜の値段は八月(表に示した額)の一・五〜五倍もする。

日用品は別として、食料品は東京に比べれば確かに安い。しかし上述した平均的収入からすれば、必要最低限の食料や生活必需品を買うだけで精一杯なはずだ。こちらの人に「みんなどうやって生活しているの?」と質問すると、「お金がない人はバザール(市場)で買い物しているんだよ」という回答がしばしば返ってくるのだが、私がよく利用する上述のスーパーは地域住民が「安い」と太鼓判を押す店で、私の知人によればバザールと値段はほとんど変わらない(ただ彼女曰く、バザールでは

同じ値段でもっと質のいい食材が手に入るそうだ)。表2に挙げたサービスの価格は若干の説明を要する。タクシーには、公認のタクシー会社と契約を結んでいる運転手によるもののほか、いわゆる「白タク」がある。ここでは、近距離なら定額で使えるタクシー会社の料金を挙げた(迎車料金込み。メーターがないため走行距離は不明)。一方、白タク料金は距離だけでなく様々な要素に左右されるため一概には言えないが、これより若干安い値段で交渉が成立する場合もあるものの、むしろ高くなってしまいうこともある。

遊園地は市内にある「ファンタジー・ワールド」へ行ってみた。例えるならカザフスタン版「浅草花やしき」だろうか。入場料はアトラクション代込みで、二歳未満は無料だが子供料金はなし。ケーブルカーは郊外の観光地メデウ(スケートリンクで有名)に最近できたばかりのもので、シユンブラク(スキージャンプ)までの往復がこの値段である(さらに上まで行く料金はこの一・五倍)。家族数人で利用するとかなりの金額になるが、遊園地はたくさんの人が遊

びに来ていたし、メデウのケーブルカーもそれなりに賑わっていた。こちらの知人に「けっこうするのを利用するお客さんはいるものだね」と言ったら、「田舎から遊びにくる観光客は、旅行中は散財してもいいと思っているからだよ」と説明された。しかし、ケーブルカーはともかく、遊園地はアルマトウ市民もかなり利用しているのではないかと気がする(ちゃんとりサーチしたわけではないが)。

●教育費

カザフスタンも日本と同様、家

計の支出に占める教育費の割合が高い。義務教育（日本の小・中・高校に相当）の場合、公立の学校は無料だが、教科書は親が買わなければならない、通学用の制服や靴などの出費もかさむ。それ以外に、学校への寄付や教師への付け届けもバカにならない<sup>⑥</sup>。ちなみに私の知人は次女を有名私立校に通わせているが、年間の授業料は九八万テンゲ（約五十二万円）だという。

大学は、私立はもちろん国立も有料で、学費は国立・私立を問わず、人気のある有名大学ほど高い傾向にある。私の知人が勤務している地方私立大学は、学部によって授業料が異なるが、だいたい年間二〇〇〇〜二五〇〇ドル程度とか。アルマトウ市内の有名大学は一万ドルというところもあると聞く。ただし全国統一試験（E・N・T）の成績がよければ政府の奨学金（grant）を受け取ることができ、学費は免除される<sup>⑦</sup>。多くの家庭にとって大学の学費を払うのは容易ではないので、どの親も奨学金を得ようと必死である。

ちなみに私は二歳児を私立保育園に預けているが、入園料は五万テンゲ（二万六〇〇〇円）、ひと月の保育料（食事代込み）は六万

五〇〇〇テンゲだ（三万四〇〇〇円）。これはアルマトウ市内でも高い部類に属するが、外国人専用というわけではない<sup>⑧</sup>。私の知人の子供が通っている民間企業付属の保育園は、保育料が月額四万テンゲだが、保育士二人あたりの園児の数は息子が通っている園よりずっと多いそうだ。なお日本と同様、公立保育園の入園は容易ではなく、子供が生まれてすぐに予約を入れても三年以上待たされることもあるという<sup>⑨</sup>。

## ●収入

カザフスタン共和国統計庁によれば、二〇一〇年の平均月収は七万七六一テンゲ（当時の公式レートで五二七ドル）である。ただ冒頭で触れたように格差が激しく、また公式統計には表れない副業に携わっている人も少なくないため、統計的データだけでは実態がなかなかつかめない。以下では断片的情報に過ぎないが、具体例をいくつか挙げておこう。

まずは大学教員のケース。最近転職した知人によると、前職の地方私立大学の月給は六万テンゲ（三万二〇〇〇円）であった<sup>⑩</sup>。教授でこの収入なので、准教授や講

師クラスはもつと低い。転職先はアルマトウ市内の有名私立大学で、肩書きは准教授になったが月給は一気に六〇〇〇ドルにアップした。アルマトウ市内の別の私大も検討したが、そちらの条件は准教授で二〇万テンゲ（一〇万四〇〇〇円）だったという。別の知人は、二〇一〇年に首都アстанаで開校したナザルバエフ大学に就職したが、提示された年収はなんと一五万ドル。大学教員の場合は勤務先によって格差が非常に大きいようだ。

小学生の子供に家庭教師をつけている知人によれば、その女性の本職は学校の先生で、月収八万テンゲ（四万一六〇〇円）だそうである。これは教師にしてはよいほうなのではないかと思う。家庭教師代は一回九〇分につき四〇〇〇テンゲ（二〇八〇円）を払っているそうだ。

大学・学校の教員、公務員と並んで薄給で知られているのが医者である。私がインタビューした外科医によれば、彼が勤務する国立病院の医者の初任給（諸手当を除く）はたったの二万六〇〇〇テンゲ（一万三五二〇円）。やはり外科医を弟に持つ友人によれば、弟

は生活のために仕事を掛け持ちしており、朝八時から午後二時までの病院勤務でおよそ六万テンゲ、午後三時から五時までの診療所勤務で三万テンゲほどの収入を得ているという（計九万テンゲ〓四万六八〇〇円）。なお、私のカザフスタン着任後しばらく家政婦をお願いしていた女性は、医大卒で救急医療に携わっていたのだが、激務であるにもかかわらず月給が安い（四万テンゲ〓二万八〇〇円）ため家政婦に転職した。ちなみに彼女が提示した条件は、食事の支度一回（一〜二日分）につき四〇〇〇テンゲ（二〇八〇円）であった。

一方、大企業の社員や銀行員、外資系企業に勤める人など、月数千ドルの高給取りは私の周りにも何人もいる。ついにながら紹介しておく、やや古い話になるが、二〇〇六年の九月、電話会社カザフテレコム（Kaztel）の社長の月収が三六万五〇〇〇ドルであることが判明し、大統領が首相に命じてこの社長を解雇させた<sup>⑪</sup>。

アルマトウでは家庭教師や家政婦、白タク運転手など、非公式なアルバイト・仕事をしている人も少なくない。白タクは当然だが、

おか なつこ

在アルマトウ海外調査員。カザフスタンにおける腐敗をテーマに、目下フィールドワーク中



▲外貨両替店。市内のいたるところにある。

家庭教師などもおそらく税金は払っていないだろう。私は気軽に乗れて世間話もできる白タクを愛用しているのだが、数人のドライバーに聞いてみたところ、白タクを本業としている人も多く、がんばって働けば、ガソリン代を除いても月に一〇万テンゲ（五万二〇〇〇円）は稼げるそうである。

また、自分が所有するアパートやマンションを貸しに出している人も多い。親族が亡くなったり、他の街に引っ越したりして空き家になっているところを貸すケースのほか、自分の家を賃貸に出して、

それより家賃が安い家に引っ越し、その差額で生計を立てている人もいる。

その他の「副収入」として指摘しておかなければならないのが賄賂だ。月給数万円のはずの公務員が高級車を乗り回し、ハイグレードなマンションや瀟洒な一戸建てに住み、夏休みは家族で海外旅行という事例を私自身も知っている。ただ、賄賂を取っている人たちすべてが優雅な暮らしをしているわけではなく、そもそも公務員や教師、医者が必要な賄賂を要求するわけではもちろんない。

今回の赴任中、この謎をさらに解明してみたいと思っている。

《注》

- (1) カザフ語およびロシア語では Алматы、英語では Almaty。日本語では「アルマティ」「アルマトイ」などと表記されることが多いが、ここではカザフ語の発音に近い「アルマトウ」を使う。
- (2) ただし待ち時間が長かったり、何カ月も手術の予約を入れられなかったりすることも少なくない。そのため、迅速かつより丁寧な診察を受ける目的で賄賂を払うことが日常化している。なお国立病院においても、合法的に有料サービスが提供されている。
- (3) 地域や学校によって異なるが、私が聞いた範囲の事例を挙げると、①学校に必要な設備購入の名目で生徒から集金する（集まったお金が目的どおりに使われる場合と、教師が着服する場合とがある）、②卒業する生徒の親が一定金額を持ち寄り、学級担任の教師に心付けとして渡す、などの習慣がある。
- (4) 政府の奨学金は国立・私立の大学・専攻ごとに配分される。そのため全国統一試験の点数だけ

- ではなく、進学先の選択も奨学金を受けられるかどうかを左右する。なお農村部の生徒、障害児や孤児などに対する特別枠もある。二〇一〇—二〇一一年度には基準が厳格化され、グラントを配分されたのは一四八大学のうち八五校のみであった。学生数で見ると、大学進学者九万一〇一八人中、奨学生は三万六〇四六人 (<http://www.newskaz.ru/society/20110805/1773266.html>)。教育分野での腐敗が深刻なカザフスタンでは、全国統一試験の点数も「購入」することができると言われている。
- (5) 比較的外国人の子供が多い別の私立保育園も見学したが、そこは入園料が四万テンゲ、保育料が七万テンゲだった。
- (6) そのゆえ保育園入園のためにコネや賄賂を使う親も少なくない。
- (7) 彼女の場合、講義は週一七—一八コマ（一コマ一時間）だった。給与は受け持つ講義の数学位、職位によって決まる。
- (8) <http://www.zakon.kz/76078-zarplata-u-qn.karibzhanova-364-tysjachi.html> カザフテレコムの株の五一％は国が所有する。